

平成 29 年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	長野県短期大学 多文化コミュニケーション学科	職名	助教	助成 金額	20 万円
氏名	小阪裕城				
研究や活動等のテーマ（申請書に記入した内容を記入すること。）					
戦後日本の女性運動の国際史・国連史的研究					
助成金の使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）					
<p>○研究の目的</p> <p>本研究は、「国際婦人年」（1975）および「国連婦人の十年」（1976～1985 年）と四回の世界女性会議（1975 年、メキシコシティ；1980 年、コペンハーゲン；1985 年、ナイロビ；1995 年、北京）の時期における日本の女性たちの動向について、国連および「国際人権レジーム」と日本社会の相互作用という視角から検討し、世界会議や「国連婦人の十年」の経験が日本の女性たちの運動や彼女たちの精神と生き方に与えた影響を問う。</p> <p>○使途</p> <p>基本的な一次資料の収集活動に用いた。使途は、調査地までの交通費、宿泊費、収集資料、複写費用、インタビュー・アンケート調査実施に向けた関連費用である。</p> <p>○調査地は以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立国会図書館（東京都千代田区） ・東京都公文書館（東京都世田谷区） ・名古屋市市政資料館（名古屋市） ・国立女性教育会館（埼玉県比企郡） ・大阪府公文書館（大阪市） ・大阪府立男女共同参画・青少年センター（大阪市） <p>○成果</p> <p>「国際婦人年」および「国連婦人の十年」において、国連世界会議に参加した女性たちの「語り」と「回想」を収集した。他方で、女性たちを会議の場へと送り出した自治体の公文書資料については、きちんと文書を残していない自治体が多く、大阪府がわずかに残しているものを例外として、あまり収集することができなかった。収集した女性たちの「語り」と「回想」を分析しながら、今後はご健在の参加者の方々にインタビュー調査を実施すべく、準備を進めている。</p> <p>現時点の成果については、2018 年 12 月に研究報告を予定しているほか、一件の国際学会に応募している。また、「世界女性会議に参加すること——「国連女性の十年」と日本人女性たちの歴史経験」（仮）と題した論考を現在執筆しており、ここで展開したラフスケッチをもとにして、来年度以降のさらなる資料収集とインタビュー・アンケート調査の実施につなげるつもりである。</p>					
助成金の使用金額及び使途					
<p>○助成金の使用金額・使途</p> <p>宿泊費：37,147 円</p> <p>交通費：131,246 円</p> <p>複写費：21,700 円</p> <p>郵送費：9,900 円</p>					
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合は URL を記載すること。）					
新学術領域研究「グローバル関係学」第二回若手研究者報告会（於京都大学）にて発表予定					